

タキミコンロンソウを探してみよう！

Cardamine brevicaulis Nakah., Osaki, A.Maeda & Kudoh

タキミコンロンソウ

[アブラナ科]

須崎市で2018年に発見されました。他のどのタネツケバナ属植物とも異なる特徴を持っているのに、なぜ今まで見つからなかったのでしょうか？花茎が伸長しない（ときどき少し伸びる個体もある）ため、ロゼットの真ん中に白い花がかたまって咲きます。花の時期には遠くからでも一目瞭然。また、生えるのは岩崖だけかと思いきや、細かな石で覆われた急傾斜の地面やちょっとした崖状になったところなどにも生えます。ロゼット型のため、落葉落枝で覆われるようなところには生えられないと考えられます。

 画像 1. 生育地の環境が分かる写真

2. 植物体（あれば花）

 生育地点のGPS情報（緯度・経度） 標本（必ず開花か結実個体を採取。数が少ない場合には、絶滅させないようにご注意を！）

◆募集する情報

高知県の須崎市と中土佐町でしか見つかっていません。しかし、生育環境は高知県ならどこにでもありそうな、崖地の流れ近くや谷の奥の岩場など。見つけやすいのは花期の3月上旬～4月上旬で、標高が高くなるにつれ開花期は後にずれていきます。寒さが長く続く年には開花も遅くなります。



ロゼットに埋もれたように白い花が咲く



湿生環境が保たれる範囲にのみ生える

分布調査クエストNo. 9 [全域]



タキミコンロンソウ：茎は伸長しない



マルバコンロンソウ：茎が伸長する



果柄基部が反り返る



タキミコンロンソウ：果実は無毛



マルバコンロンソウ：果実は有毛

マルバコンロンソウは花序や長角果に密に毛が生え、全体に毛が多く生えています。一方、タキミコンロンソウは葉の表面と縁に刺状の突起がありますが、毛は生えていません。通年ロゼット型で茎が伸長しないという特徴からも、他のタネツケバナ属植物と区別できます。



全体無毛



縁と表面の刺状突起

